



# 市議会だより

かかみがはら

発行

各務原市議会

岐阜県各務原市那加桜町1-69  
電話058-383-2001

編集

市議会だより編集委員会



中山道鵜沼宿完成記念祭（9月23日）

## 9月定例会

|         |   |
|---------|---|
| 主な議案説明  | 2 |
| 委員会審査   | 4 |
| 審議結果    | 6 |
| 委員会調査報告 | 7 |

|              |    |
|--------------|----|
| 市政を問う 一般質問   | 8  |
| 局地的集中豪雨      |    |
| 太陽光発電助成制度の導入 |    |
| 小中学校の耐震化     |    |
| 各務原市シビルミニマム  |    |
| 市民の声、議会素描    | 12 |

## 平成22年度一般会計決算

総額478億5910万円を認定

## 各務原市シビルミニマムを推進

平成23年第5回定例会（9月定例会）を8月29日から9月22日までの25日間の会期で開催しました。

市長から提出された議案は、平成22年度一般会計決算をはじめとする28案件で、委員会、本会議審議を経て、いずれも原案のとおり承認・認定・可決・同意しました。

第5回定例会に市長から提出された議案は、

- ・専決処分の承認 1件
- ・決算の認定 7件
- ・予算の補正 3件
- ・人事の案件 7件
- ・条例の改正 7件
- ・財産の取得 1件
- ・市道路線の認定・廃止 2件

の合計28案件です。

主な議案内容は、次のとおりです。

平成22年度  
一般会計決算

決算額は、歳入478億5910万5211円、歳出448億6953万7426円となりました。

平成22年度は、本市の

グランドデザインである第2次新総合計画のスタートを切る大変重要な年でした。

しかし、日本経済は依然として厳しい状況にあり、景気低迷に伴う税収の大幅減などが本市の財政運営にも大ききのかかりました。

そのような状況下においても、これまで培った強い財政力を背景に、第2次新総合計画に盛り込まれた「6つの都市戦略」に沿った事業を一つ一つ確実に実

## 各務原市シビルミニマム 5つの柱

すべて各務原市民は、

- 健康で文化的な希望ある生活を営むことができる。
- 安心して、出産、保育、子育てサービスを受けることができる。
- 障がいがあっても、住み慣れた家庭や地域で、安心してのびのびと生活することができる。
- 元気で、生きがいにあふれた高齢期を送ることができる。
- いつでも質の高い保健・医療サービスを受けることができる。

施し、「夢ある都市」の実現を目指しました。

特に、「人にやさしい都市」の実現のため、シビルミニマム施策群に盛り込まれた事業を積極的に展開しました。

## 平成22年度の主な事業

## ●各務原大橋建設事業

平成24年度の完成を目指す。指し、木曽川に新橋を架け、取り付け道路を整備しています。



建設が進む各務原大橋

施設を建設しました。

## ●道路安全施設現況調査・管理台帳電子化事業

道路照明、カーブミラーなどの道路施設約4600基の現況調査を行い、管理台帳の電子化を行いました。

## ●学童保育室空調機設置事業

小学校4年生の夏休み受け入れ開始に伴い、新たに学童保育室として利用する7校の教室にエアコンを設置しました。

## ●中山道鵜沼宿再生整備事業

中山道鵜沼宿のまちなみを再生するため、まちづくり交付金を利用し、整備しました。

●蘇原コミュニティセンター  
1階整備事業

市民サービスセンター、集会施設、子ども館、学童保育室の4つの機能を持つ複合施設「そはらふれあいセンターそらー」を整備しました。

## ●リサイクルセンター建設事業

北清掃センター旧焼却施設などを解体し、跡地に破砕施設・リサイクル



電線を地中化した中山道鵜沼宿

また、各務原大橋をはじめ、蘇原コミュニティセンターやリサイクルセンターの建設事業など、これからの夢・安心を創造する基盤整備を着実に実施するなど、福祉、環境、教育など幅広くバランスの取れた事業を積極的に推進しました。

財政状況は、不断の行財政改革により財政力を強化し、健全財政を堅持しています。特に、実質公債費比率は2.4%となり、県内市町村第1位となった前回数値よりさらに改善しました。

### 平成23年度 補正予算

#### 平成23年度一般会計補正 予算(第2号)

私立川島東保育園の増築工事に対する施設整備補助金をはじめ、木造住宅の耐震診断や耐震補強工事の申請件数の増加に伴う経費の増額、グリーンスタジアムでのイベント開催時の駐車場不足に対応するための西側駐

車場の整備費など、当面の行政需要に対応するため、総額1億7865万1千円を追加する予算の補正を行うものです。

#### ○歳入

・国庫支出金

減額554万1千円

・県支出金

6610万6千円

・繰越金

1億1808万6千円

○歳出の主なもの

・私立保育所施設整備助成事業費

8592万1千円

・市単道路改良事業費

1907万6千円

・建築物等耐震化促進事業費

997万円

・体育施設整備事業費

2690万5千円

#### 平成23年度一般会計補正 予算(第3号)

東日本大震災の被災自治体に支援派遣する職員の旅費や、8月23日に市東部で発生した集中豪雨により破損した排水路や道路のり面などの復旧工事に係る排水路改良費、今後の災害などの不測の

事態に備えるための予備費の増額など、総額8410万3千円を追加する予算の補正を行うものです。

#### ○歳入

・繰越金

8410万3千円

○歳出

・東日本大震災被災自治体派遣経費

341万8千円

・排水路改良費

6000万円

・予備費

2068万5千円

これら2件の補正予算を追加したことによって、平成23年度一般会計の予算総額は422億1270万2千円となります。



被災状況調査を支援する市職員(塩電市)

#### ●学校施設耐震化事業

小中学校校舎耐震補強計画に基づき、川島中学校、尾崎小学校などの耐震補強工事、設計などを実施しました。

#### ●消費者行政推進事業

市役所本庁舎4階で行っている消費者相談を週3日から週4日に拡大しました。

#### ●障がい者相談支援センター事業

障がいに関する相談支援センター「どんぐり」を福祉の里に設置しました。

#### ●各務野さくらマーチングバンド事業

児童の豊かな情操を養うため、小学生のマーチングバンドを結成し、地域の行事や街角コンサートなどの活動を行いました。



耐震補強をした川島中学校

#### ●稲羽東小学校屋内運動場改築事業

災害時の避難所となる体育館の改築工事を実施しました。

#### ●蘇原第一小学校校舎増築事業

児童数の増加に伴い、教室が不足するため、校舎を増築しました。

#### ●川島スポーツ公園スコアボード改修工事

快適な試合運営を行うため、野球場のスコアボ



各務野さくらマーチングバンド

## 委員会審査



### 総務常任委員会

#### 平成22年度一般会計決算の認定(所管分)

▼質疑 滞納した市税の徴収のために行っている差し押さえの状況は。

▽答 預貯金、給料などの債権や不動産などの差し押さえを190件行った。

また、差し押さえた不動産の公売を1件行った。

▼質疑 差し押さえに至るまでの手続きの流れは。

▽答 滞納が発生すると督促状を送付し、それでも納付されない場合は、1年間に数回催告状を送している。

さらに納付されない場合は、差し押さえ予告を送付し、その後、差し押

常任委員会に審査の付託をした案件について、9月13日から16日の4日間で、常任委員会を開催し、審査を行いました。

各常任委員会での主な質疑内容は次のとおりです。

さえを行っている。

▼質疑 保育料の不納欠損の内容は。

▽答 地方税法の徴収権の消滅時効を目安として、5年を経過したもので居所不明により徴収が困難なものについて不納欠損処分を行った。処分件数は、25件であった。

▼質疑 消費者相談を週3日から週4日に増やし



消費者相談風景

たが、状況はどうか。

▽答 平成21年度は167件であったが、平成22年度は218件と約1・3倍に増えた。

▼質疑 職員の人件費はどれくらい減ったのか。

▽答 正規職員の人件費は、平成21年度に比べて約4億1500万円減っている。

### 民生消防 常任委員会

#### 平成22年度一般会計決算の認定(所管分)

▼質疑 シニアクラブの会員数が減ってきているようだが、その傾向は。

▽答 平成21年度は147クラブ、1万200人の会員だったが、平成22年度は148クラブ、1



シニアクラブの活動の様子

万1000人の会員となっており、会員数は若干の減少傾向となっている。

▼質疑 保育所の待機児童はいるのか。

▽答 現在、待機児童はいない。

途中入所の場合でも、希望する保育所への入所は難しい場合があるが、いずれかの保育所で受け入れている。

▼質疑 生活保護を打ち切った件数と内訳は。

▽答 全部で87件である。内訳は、収入の増加が29件、死亡が27件、転出が24件、行方不明が4件、逮捕が3件である。

▼質疑 現在の救急救命

士の人数と目標配置人数は。

▽答 現在、26名である。

365日24時間、常に1台の救急車に2名の救急救命士を従事させるには、救急体制は2交代制をとっているため救急車1台に6名が必要である。

市内には、救急車を7台配備しており、目標配置人数は42名である。

▼質疑 住宅用火災報知器の普及率は。

▽答 普及率は61・0%である。

今後は、さらに普及活動を強化していきたい。

#### 平成22年度国民健康保険事業特別会計決算の認定

▼質疑 一般会計からの繰入金を当初予算では5億円としていたが、2億円減らした理由は。

▽答 当初は、5億300万円の繰り入れを予定していたが、国、県からの支出金が想定していた以上に増えたため、調整し、最低限の金額として3億円を繰り入れた。

# 経済教育 常任委員会

## 平成22年度一般会計決算 の認定(所管分)

▼質疑 友好都市である敦賀市を訪れる市民に対し、宿泊費を助成する「市民休養の郷利用助成」の利用状況と今後の方針は。

▼答 平成16年度がピークで年間1200名の利用があったが、平成22年度は過去最低の278名で、前年より92名減った。

今後、継続していくかどうかなど利用者の意見も聞きながら検討したい。

▼質疑 市民農園を4カ所、136区画を開設しているが、その状況と今後の開設の方針は。

▼答 病気、引っ越しなどの理由での辞退を除き、100%利用されている。

今後の増設に当たっては、周辺環境、利便性、規模の妥当性など考慮して適地を検討していく。

▼質疑 緊急雇用創出事

業で実施したふれあいバスの乗降調査の結果は。

▼答 利用頻度は週1、2回利用する方が3割となっており、一番多い。

利用目的は通院、買い物で約半分を占めていた。

また、利用者の6割が女性で、さらに高齢者の利用が多いという結果であった。

▼質疑 乗降調査結果から、コースを改善するなどの課題は出たか。

▼答 よく利用される場所や時間帯などの調査データに基づき、より効果的に運行できるように、乗客の少ない路線の見直しなどを含めて、今後の課題としていきたい。

▼質疑 中学校の部活動に88%の生徒が参加しているが、入っていない生徒の理由は。

▼答 以前は部活動全入制をとっていたが、現在は希望参加となっているためである。

希望参加とした理由は、ピアノ、新体操、硬式野球など学校の部活動にな

いものをやりたいとの要求に対応したためである。

## 平成23年度一般会計補正 予算(所管分)

▼質疑 炉煙遺跡公園敷地内の旧桜井家を保存修繕することだが、具体的に何をするのか。

▼答 村国座と同様の方法により、一度解体修理し、古材を利用して復元する手法により修繕を行う。



修繕予定の旧桜井家（鵜沼三ツ池町）

容は。

▼答 主なものは、空き地の管理に関する苦情などが108件、事業活動に伴う騒音・振動の苦情が21件、水質汚濁に関する苦情が17件であった。

▼質疑 北清掃センターのごみ焼却で発生する飛灰や金属の処理状況は。

▼答 飛灰は、全体の73%を再資源化しており、残りの27%は埋め立て処分している。

溶融メタルは、全量売却している。

▼質疑 にんじん通りで取得が済んでいない用地の対応は。

▼答 現在、県と協議中であるが、10月に当該土地の収用に向けた申請を行う予定である。

その後、所有権を取得するための手続きを行い、平成24年度中に用地取得を完了したい。

▼質疑 最近の違反広告物の状況は。

▼答 電柱などの張り紙は、ビューレンジャーの活動により、随分減った。



張り紙をはがすビューレンジャー

また、違反屋外広告物の正率は毎年10%ほど改善されてきており、平成22年度末で64%ほどに達した。

今後、悪質なものに対しては、より厳しい手段も必要かと考えている。

## 平成22年度下水道事業特別会計決算の認定

▼質疑 下水道普及率の今後の計画は。

▼答 平成22年度に下水道普及率は71.3%となり、県平均の70.2%を上回った。

今後は、第2次新総合計画で平成26年度末に77.5%という目標をあげており、これを目指して整備を進める。

## 審 議 結 果

### (9月定例会)

- 専決処分の承認(市税条例の一部を改正する条例)…………… 原案承認・全会一致
- 22年度一般会計決算の認定…………… 原案認定・賛成多数
- 22年度国民健康保険事業特別会計決算の認定…………… 原案認定・賛成多数
- 22年度老人保健特別会計決算の認定…………… 原案認定・全会一致
- 22年度介護保険事業特別会計決算の認定…………… 原案認定・全会一致
- 22年度後期高齢者医療事業特別会計決算の認定…………… 原案認定・賛成多数
- 22年度下水道事業特別会計決算の認定…………… 原案認定・全会一致
- 22年度水道事業会計決算の認定…………… 原案認定・全会一致
- 23年度一般会計補正予算(第2号)…………… 原案可決・賛成多数
- 23年度介護保険事業特別会計補正予算(第1号)…………… 原案可決・全会一致
- 固定資産評価審査委員会委員の選任(長尾則子氏)…………… 原案同意・全会一致
- 人権擁護委員候補者の推薦(後藤満子氏)…………… 原案同意・全会一致
- 人権擁護委員候補者の推薦(深尾友一氏)…………… 原案同意・全会一致
- 人権擁護委員候補者の推薦(宮崎邦夫氏)…………… 原案同意・全会一致
- 人権擁護委員候補者の推薦(安東節子氏)…………… 原案同意・全会一致
- 人権擁護委員候補者の推薦(遠藤裕氏)…………… 原案同意・全会一致
- 人権擁護委員候補者の推薦(勝野武雄氏)…………… 原案同意・全会一致
- 市税条例等の一部を改正する条例…………… 原案可決・賛成多数
- 災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例…………… 原案可決・全会一致
- 青年館条例の一部を改正する条例…………… 原案可決・全会一致
- 日本ラインうぬまの森条例の一部を改正する条例…………… 原案可決・全会一致
- 図書館条例の一部を改正する条例…………… 原案可決・全会一致
- 市の良好な環境の保全及び創出に関する基本条例の一部を  
改正する条例…………… 原案可決・全会一致
- 廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例  
の一部を改正する条例…………… 原案可決・全会一致
- 財産の取得(小型動力消防ポンプ付水槽車)…………… 原案可決・全会一致
- 市道路線の認定(市道鵜1336号線ほか1路線)…………… 原案可決・全会一致
- 市道路線の廃止及び認定(市道川4004号線)…………… 原案可決・全会一致
- 原子力発電からの撤退を求める請願…………… 不採択・賛成少数
- 23年度一般会計補正予算(第3号)…………… 原案可決・全会一致

## 委員会

## 調査報告

民生消防常任委員会

〈期間〉7月5日～7日

○熊本市

「慢性腎臓病（CKD）対策事業」

熊本市は、人工透析患者の割合が全国に比べ1.4倍も高いため、慢性腎臓病患者の増加を抑えようとする対策事業が進められている。

主な活動として、CKDに関する啓発や腎機能の動きを示すeGFR値の算出の促進、また、市医師会や腎臓専門医などの関係機関と連携し、CKDの発病予防や悪化防止のために総合的な取り組みを行っていた。

CKDは、初期にはほとんど自覚症状がないため、本市においても特定健診のさらなる受診率の向上を図るなど、早期発見に向けた取り組みが必要と考える。

○熊本県八代市

「認知症対策」

八代市では、地域住民への認知症の啓発や理解促進を図るほか、徘徊SOSネットワークの協力店をまとめたマップの作成、症状のチェックリストや相談先などを掲載した「もの忘れ相談手帳」を全世帯に配布し、より認知症の早期発見・予防に努めていた。

また、お互いの悩み相談や情報交換の場として、認知症の人とその家族の意見交換会や認知症サポーター養成講座の開催などは、ぜひ参考とすべき取り組みであった。

○春日・大野城・那珂川消防組合（福岡県春日市）

「消防救急無線デジタル化」

全国で2番目に無線デジタル化の運用を開始した春日・大野城・那珂川消防組合の説明によると、消防救急無線のデジタル化は、①声がきれいになる。②文字情報をデータ送信できる。③通

信傍受が困難になり、個人情報を守られる。④救急車両の位置情報を把握できる。⑤患者のたらい回しを防ぐなど、消防本部と災害現場における交信や情報伝達で大きなメリットがあるとのことであった。

総務省は、平成28年までにデジタルへ移行することを示しており、今後、本市が導入する際に、ぜひ参考としたい。



デジタル化について説明を受ける

建設水道常任委員会

〈期間〉7月26日～28日

○秋田市

「ごみ減量の取り組み」

秋田市では、家庭ごみの排出量を1人1日当

たり556グラムと設定し、さまざまなごみ減量施策を実施している。

その取り組みの一つとして、各家庭での「生ごみの水切り」と「雑がみの分別」の徹底の呼びかけを行っている。

家庭ごみの内容を調査した結果、生ごみが全体の52%、紙類が15%、プラスチック類が15%であったことから、まず過半数を占める生ごみの水切りの徹底を図っている。

また、紙類の約8割がリサイクル可能であったことから、雑がみの分別の徹底に取り組んでいる。

○新潟県新発田市

「街並み環境整備事業」

視察を行った寺町・清水地区は、旧城下町で寺院が数多く残されており、清水園（新発田藩主の下屋敷）や足軽長屋などの観光資源にも恵まれていることから、それらを生かす整備として、歩道のせせらぎ整備、昔風の街路灯の設置、電線の地中化、しだれ桜の植栽



整備された歩道（新発田市）

などを行い、魅力的な街づくりを進めている。

○新潟市

「資源再生事業」

視察した「エコプラザ」では、回収したり持ち込まれた不用品を修繕・清掃し、1カ月ほど展示して希望者に提供するリサイクル品提供事業を行っている。

平成22年度は、2337点の回収・持ち込み品のうち、1343点を修繕・展示し、9789人からの抽選申し込みがあった。

取り扱い規模の違いはあるが、本市も参考としたい。

## 市政を問う 一般質問

9月8日、9日の2日間、一般質問を行いました。  
質問をした議員は次のとおりです。(発言順)

古田澄信、水野岳男、太田松次、三和田紀、横山富士雄、高島貴美子、  
川嶋一生、波多野こうめ、永治明子、角弘二、杉山元則、岡部秀夫

### 局地的集中豪雨

#### 災害現場の確認など夜通し実施

▼問 8月23日早朝、市内東部を襲った局地的集中豪雨に、どのような体制をとったのか。

▼答 深夜午前0時15分に大雨警報が発令されたことを受け、災害警戒本部を設置し、消防・警察などと連携を図り、災害現場の確認や通行規制などの初動対応を夜通し実施した。

▼問 災害情報スピーカーや防災メールなどの情報伝達を、なぜ行わなかったのか。

▼答 今回の浸水被害は、川からの外水はほとんどではなく、市街地に降った雨による内水はほとんどが原因で、比較的早期

に水は引いた。

また、土砂崩れに対しては、土砂災害警戒情報の発令がなく、現場を確認し、さらなる被害の発生の可能性がないと判断したため、災害情報スピーカーなどでの情報提供は実施しなかった。

▼問 豪雨時における浸水対策として防水板などの設置工事に対する助成制度を設けてはどうか。

▼答 浸水対策の一つとして防水板の設置は、一定の効果が期待できると認識しており、今後、調査研究していく。

▼問 雨量計を設置し、市民がウェブサイトで確認できるようにして、自

主的に対応できるようにする必要があるのでは。

▼答 現在、市内には5カ所の雨量計があり、そのうち3カ所は市民がインターネットで雨量を確認することができている。

これらの情報へ市のウェブサイトにアクセスしやすくなるなど市民が情報を得られやすい環境を整えていく。

突発的で局地的な豪雨



8月23日の豪雨による被害現場(鵜沼丸子町)

は予測が困難なため、自主的に情報を収集し、早めの対応をお願いしたい。

### 総合防災訓練

▼問 今年度は東日本大震災後、初の総合防災訓練となったが、どのような課題があったか。

▼答 全市一斉防災訓練としては4年目となる今年の防災訓練には、自治会、関係機関、学校など約6400名の参加があった。

来年度以降も継続して実施していく予定であるが、自主防災訓練が活発に実施されるなど、地域防災力の向上につながっていく。

▼問 総合防災訓練で消防団のアピールの場を設けては。

▼答 消防団は、訓練の指導を行っており、地域

の方に消防団の必要性や活動内容は、改めて認識されたと考えている。

消防団活動のアピールという観点からすると物足りなさを感じるのと意見もあるので、会場内での消防団の訓練内容を検討していく。



総合防災訓練(那加第一小学校)

▼問 防災ひとづくり講座の状況は。

▼答 現在、受講される市民を募集中である。

講座の内容は、大学教授、災害NPO、災害被災者、消防署員、防災行政担当者などが講師となり、座学やグループ演習、実技演習を行う予定である。

## 太陽光発電助成制度の導入 来年度予算化に向け検討

▼問 太陽光発電の導入を促進するため、太陽光パネル設置に対する助成制度を導入しては。

▼答 国のエネルギー政策を見極めながら、助成制度の来年度導入に向けて検討していく。

▼問 公共施設に太陽光パネルを設置する考えは。

▼答 平成23年度は那加桐野地区の学習等供用施設に設置する。今後も計画的に導入していく。

### 平成22年度 決算の成果

▼問 平成22年度決算の特徴は。

▼答 シビルミニマム施策群に盛り込まれた事業を展開するとともに、各

務原大橋建設事業をはじめ「これからの夢・安心を創造する基盤整備」を実施し、福祉、環境、教育など幅広く、バランスの取れた事業を推進した。

▼問 次世代への責任を果たすための堅実な財政運営の成果は。

▼答 地方公共団体財政健全化法に基づき査定した実質公債費比率は2.4%となり、前回数値よりさらに改善し、プライマリーバランスも8年連続黒字を堅持した。

▼問 75%から80%が妥当値とされる経常収支比率の現在の状況をどう認識しているのか。

また、80%を切ることはできるのか。

▼答 平成22年度は88.6%で、前年度決算額と比べて2%増加した。この原因は、人件費は減少しているものの、高

齢化の進展や生活保護費の増による扶助費の増加など、本市の事情に起因しないものが少なくないことから、現行制度上、自助努力だけでは経常収支比率を80%以下にすることは困難と考える。

### グリーン リサイクル

▼問 緑ごみを100%リサイクルするグリーンリサイクル推進事業の状況と今後の方針は。



チップ化される緑ごみ（前渡東町）

▼答 平成22年度の緑ごみ搬入実績は、1115トンであった。

市内18拠点で回収した緑ごみは、市内2カ所の民間の再資源化施設で粉碎・チップ化され、バイオマス燃料となり、製紙工場で発電用ボイラー燃料として活用されている。

また、公共施設から出る剪定した枝や落ち葉などの緑ごみは堆肥化し、市民に年2回配布している。

堆肥の生産量は、200トンを超えている。

### 那加中通り 踏切対策

▼問 那加中通りのJR、名鉄踏切の拡幅の状況は。

▼答 JR東海と再三協議を重ねてきたが、今年5月にJR東海から、踏切の拡幅に伴う分岐器（ポイント）の移設が困



那加中通りのJR踏切（那加吾妻町）

難なため、拡幅は受け入れられないとの回答があった。

その後の地元自治会連合会などとの協議の中で、通学路の変更と踏切前後の交通規制の要望があったので、現地調査を実施し、関係機関と実施の可否を調整している。

今後も地元自治会と協議をしながら、歩行者が安全に渡ることができる踏切対策に取り組んでいく。

なお、名鉄踏切については、歩道が確保されているので、現在の状態でよいと考えている。

## 小中学校の耐震化

### 平成26年度に完了

▼問 文部科学省の小中学校耐震改修の状況調査によると、岐阜県平均耐震化率は84%だが、状況はどうか。

▼答 現在は65・1%で、平成23年度末には71・5%になる見込みである。

国の補助金を受けて耐震補強を進めると、すべての小中学校の耐震化を完了するまでに長期の年数がかかるため、平成16年度から平成18年度にかけて、緊急補強工事を実施した。

この工事は、文部科学省の基準を満たしていないため、耐震化率は低くなっているが、地震時に校舎が倒壊しないよう安全を確保している。

▼問 耐震化率が100%になるのはいつか。

▼答 文部科学省は、平成27年度までに耐震化を終えることを目指す方針を示したが、それより早

い平成26年度までに、すべての小中学校の耐震補強工事を完了するよう進めていく。

### 犬山市との まちづくり盟約



▼問 犬山市との「まちづくり盟約」を締結したが、その意義は。また、どんな施策を進めようとしているのか。

犬山市とまちづくり盟約を締結

### ぎふ清流国体

▼答 中山道鵜沼宿と犬山城や城下町地区を核とした、新たな交流人口の拡大を図ることを目的としている。

ハイキング大会の誘致や両市の歴史遺産を巡るウォーキングコースの整備などを全国発信しながら、都市ブランドの確立を目指していく。

▼問 国体を来年に控え、開催に向けたPR活動の状況は。

▼答 現在、マスコットキャラクターのミナモを活用したPR活動を行っている。

11月の産業・農業祭では、国体1年前イベントを開催し、開催への気運を盛



り上げていく。

▼問 選手と市民の交流や市内観光PRをどのように考えるか。

▼答 競技会場に「おもてなし休憩所」を設けて、ふるまい鍋や無料ドリンクなどを提供し、市民と選手との交流の場をつくる。

また、この機会に市の観光をPRするため、観光マップやグルメマップを来場者に提供するほか、中山道鵜沼宿一帯や河川環境楽園など、観光モデルコースの情報を案内し、選手や観客に各務原市をアピールしていきたい。

▼問 宿泊施設は、どのように確保するのか。

▼答 県と各市町が連携して合同窓口を開設し、広域的・効率的にあつせんを行う予定である。

▼問 国体への市民参加の状況は。

▼答 今年度開催したりハーサル大会では、会場に飾る花プランターの育成を市内小学生が、応援

メッセージ入りのうちの作成を市内中学生が行った。

さらに、会場運営や事前PR活動にも多くの市民ボランティアに協力いただいている。



プランターに応援メッセージを貼る小学生

▼問 インターネットを利用して、試合の映像を配信しては。

▼答 国体のウェブサイトで、リハーサル大会の試合結果や写真、録画を配信する予定である。

インターネットによる試合中継を今後検討しながら、試合の状況をできるだけリアルタイムに配信し、国体を盛り上げていきたい。

## 各務原シビルミニマム

### 成果と今後の課題は

▼問 シビルミニマム施策の成果と今後の課題は。

▽答 平成22年度は、国の社会保障制度に、市独自事業を上乗せして全161事業を積極的に展開し、福祉全体の底上げを図った。

その中で、高齢者・障がい者世帯への住宅用火災警報器の設置や理美容サービスへの助成、妊婦健康診査への助成、子育て・教育相談センターや障がい者相談支援センターの開設、運営などを行った。



高齢者理美容サービス

今後も、社会経済情勢や時代の要請を敏感に感じ取り、自立の精神を前提に、市民と行政がそれぞれの役割を果たしていくことを基本として、検証と見直しを常に行い、その時代にあつた福祉サービス水準を定めていく。

### 子育て支援

▼問 企業内の保育施設への助成制度の成果は。

▽答 より多くの企業が仕事と育児の両立支援に取り組み仕組みづくりの一つとして創設した。

平成22年度は、調剤薬局に保育施設を設置した法人に対して助成した。

▼問 公立保育所を民営化するメリットは。

▽答 公立保育所には、



民営化予定の前宮保育所（前渡西町）

長年培ってきた保育理念があり、民間保育所には、創意工夫された効率的な運営ノウハウがある。

それぞれの良い側面を取り入れることによって、市全体の保育の質を高め、いく相乗効果がある。

すでに民営化した保育所での保護者へのアンケートでは、保育士の対応、保育の内容・質など、いずれも良好な意見を得ている。

▼問 県内の企業や店舗などで買い物などをする際に、ポイント加算や割引、託児サービスなどが受けられる「ぎふっこカード」の配布と登録企

業の状況は。

▽答 カードの配布は、母子手帳の交付時のほか、市役所、サービスセンター、子ども館などで行っている。

市内では158の企業が登録し、子育てを応援している。



ぎふっこカード

### 保育料・給食費の滞納

▼問 保育料の滞納が問題となっている中で、法改正により10月から保育料を子ども手当から天引きすることが可能となるが、どのように対応するのか。

▽答 子ども手当からの保育料の天引きは、システム改修や事務的な手続きの調整など検討事項は

あるが、利用者負担の公平性の観点から、徴収に向け、詳細な検討をしていく。

▼問 給食費の滞納には、どう対応するのか。

▽答 保護者の同意が条件となるが、負担の公平性の観点から、子ども手当から給食費を差し引くことができるように、仕組みを整えていく。

▼問 国民健康保険財政の今後の経営見通しは。

▽答 国民健康保険事業の財政状況は、年々医療費が増大する中、平成20年度以降の経済不況により急速に悪化した。

そのため、平成22年度に一定の保険料の引上げを実施するとともに、急激な負担増を軽減するため、一般会計から臨時の繰り入れを行ったことにより、国民健康保険制度の安定的運営に一定の効果があった。

今後も適正な公費負担と被保険者の保険料負担により、安定的な財政運営に努めていく。

## 市議会だより編集委員会調査報告

《期間》8月2日～3日

## ○栃木県さくら市

本市と同じく議員が中心となって市議会だよりの作成・編集を行っている。

特徴的なのは、過去の質問に対する回答について、その後市がきちんと対応したかどうかの検証を行っており、本市も参考となる取り組みである。

## ○栃木県宇都宮市

平成22年4月に開催された中核市の広報コンクールで審査員特別賞を受賞。

表紙では、複数の写真を組み合わせて、現在進めている市の事業を分かりやすく説明している。また、内容も写真やカラーを効果的に使用して、市民が親しみやすいデザインとなっている。



さくら市議会の説明を聞く委員

## 市民の声

鵜沼各務原町  
大谷 泰史さん

各務原市を中心にピアノや電子オルガンの指導や演奏活動に従事しております。

各務原市が平成21年度より「音楽の街」を推進している中、私はこれまでに2度にわたりワンコ

## 音楽の街に期待

インコンサートに出演、市内のコーラスサークルの伴奏を務め、今年で9回目を迎える音楽ウィーク・街角コンサートにも参加しています。

音楽には高揚、癒しなど人の心を揺り動かす力があります。言葉は関係ありません。世界共通の言語なのです。

私の演奏活動の一つとして、子ども向けジャズユニット「ラブル☆」

で幼稚園や保育園などで演奏させていただいています。

子どもたちと一緒に歌ったり踊ったり手拍子したりで、その楽しそうな笑顔にこちらもパワーをもらっています。

音楽を通して、演奏する力だけでなく、譜面を読み取る力、音を聞き分ける力、そして、感性豊かな心、想像力を育てます。

また、音楽だけに限らず、自分の思いを表現する力やコミュニケーション

## 市議会を傍聴しましょう

次の定例会は、  
11月30日開会予定です。

会議当日、午前9時30分から  
市役所6階で受付しています。

詳しくは議会事務局総務課へ

ン能力も大切にしたいと思っています。

子どもたちが学校で合唱の伴奏者を務めたり、吹奏楽に活用されるなど、練習の内容が学校などの日常生活に還元されることは、指導者として大きな喜びです。

音楽が好きだ！ピアノや電子オルガンが好きだ！そして何より、音楽は楽しい！という思いをこれから発信し続けていきたいです。

音楽の街に期待しています。

## 議会素描

- ▼地震、津波、台風と災害に悩まされ続ける日本列島。まずは自分のできる備えをしていきたい。
  - ▼運動会シーズン。子供たちから元気をもらおう。
  - ▼本市も災害に負けない元気なまちであり続けたい。
  - ▼自主財源である市税収入が13億円を超える減少。強い財政力を保ちつつ、地域コミュニティのさらなる発展を目指す。
  - ▼議会が閉会したらめつきり秋めいて来た。今議会は開会中からなぜか傍聴席に秋風が。
  - ▼今後の議会のあり方についての検討が始まる。いずれにしても、市民のための議会改革を進めなければならない。
- 市議会だより編集委員会**
- 委員長 杉山元則  
副委員長 川嶋一生  
委員 水野岳男  
委員 池戸一成  
委員 高島貴美子  
委員 足立孝夫

